

御巣鷹の事故から38年！

安全最優先を
忘れてはならない！

解雇争議の解決と 安全運航の確立を！

< 御巣鷹の墜落事故の概要 >

1985年8月12日18時56分、羽田を離陸し大阪に向かっていたJAL123便が群馬県の御巣鷹の尾根に墜落し、単独機としては世界最悪の乗客乗員520名の尊い命が失われました。改めてご冥福をお祈り致します。



事故の背景に組合潰しの労務姿勢！

JALは昭和40年代後半から連続事故を起こし、これまで745名の犠牲者を出しています。事故の背景に、利益優先の違法体質があることが問われました。御巣鷹の事故後に、鐘紡の伊藤淳二氏が会長に就任し、4つの方針で改革が進められました。

- ①絶対安全の確立 ②現場第一主義 ③公正明朗な人事 ④労使関係の安定・融和

しかし、旧経営陣と最大労組の反発を受け、伊藤会長は退任。その後、経営陣は4つの方針を黙殺、組合潰しの違法行為をエスカレートさせました。2007年に発覚した「監視ファイル事件」は象徴的な事件です。そして、2010年経営破綻後、「利益なくして安全なし」の経営理念を掲げ、破綻を利用して165名の解雇に突き進みました。更生計画の人員削減目標はとうに超過達成され、必要のない解雇でした。その狙いは組合の弱体化、モノ言う労働者の排除でした。

解雇争議の解決なくして安全なし！



モノ言う労働者を解雇した結果、職場では、「人員不足」「勤務がきつい」「モノが言いにくい」などの声が蔓延し、賃金の低い客室乗務員の職場では、退職者が後を絶ちません。

安全運航は「自由にモノが言える職場風土」や「労使関係の安定」が基盤であることは、歴史が証明しています。13年続いている165名の解雇争議を一日も早く解決することが、JALに求められています。

★JAL 不当解雇撤回争議団

★JAL 被解雇者労働組合 (JHU) ☎080-4905-3383



2023/8/12